

# 事例概要

氏名 [ 山本 はな ] 年 齢 [ 40 ]才  
市町村 [ 京都府長岡京市 ]  
障害名 [ 知的発達遅滞 ] 等級 [療育手帳B判定]  
障害支援区分 [ 受けている【区分4】 ・ 受けていない ]

## ケースの概要（家族構成、対象者の生活歴、障害歴、現状、課題を整理したもの）

はなさんと母（64歳）の二人暮らし。住居は、民間のアパートを借りており、間取りは2LDK。一部屋は居室、もう一部屋は倉庫ようになっており、それぞれの個室はない。父親は、はなさんが小学校6年生の時に離別。その後は、母が清掃の仕事をして生計を立てていた。

はなさんは、地域の小学校普通学級に在籍。その後、地域の中学校育成学級、中学卒業後は養護学校の高等部に進学した。高等部卒業後は、学校の紹介でクリーニング店に就職した。高等部では、美術部に在籍し、水彩画などを積極的に描いていたようである。また学校では今とは違い、おしゃべりが好きで、アイドルの物まねなどをやる側面もあったようである。

就職先のクリーニング店には同じ学校の先輩や後輩もおり、社長の配慮もあったことから、楽しく過ごせていた。しかしながら、5年前に社長が他界し、社長の息子が後を継ぐと、仕事での配慮が少なくなり、同僚が一人ずつ退職していった。相談できる相手もおらず、仕事量が増えていったこともあり、うまく作業がこなせず、日常的に叱責を受けることが多くなった。そのような中、不満をいえない性格も災いし、出勤できなくなり、3年前に退職することになった。

退職後は、無気力と自信のなさもあり、また対人関係不安も強く、家から出ることすらできなくなってしまった。母も、糖尿病が悪化し仕事ができない状態になっており、生活費の不安もあって、はなさんには辛く当たることも多くなっていた。一方で、はなさんのイライラが高まった際には、母の髪の毛を引っ張ったり、母を殴ったりといった暴力も見られた。

そんな時、市の広報誌で「引きこもり相談」の記事を見て相談にいった。そこで精神科受診を勧められ、はなさんと一緒に近隣の診療所を受診し、気分障害（うつ）ということで服薬を開始した。その精神科診療所の相談員に、母が経済面での不安を相談したところ、知的障害での年金申請ができることを教えてもらい、その相談員の支援にて、障害基礎年金2級の受給ができるようになった。しかしながら生活費の課題は深刻であり、困り果てた母が、現状を近隣の知人に相談したところ、地区民生委員を紹介された。地区民生委員の働きかけで、生活保護の申請に至り、支給が認められ、金銭面の課題は、ひとまず解消された。

その後、生活保護ワーカーは、はなさん世帯の家庭訪問をする中で、家族の喧嘩が絶えないことを知り、一日中はなさんと母と一緒にいる状況では喧嘩がなくならないと感じ、隣の部署の障害担当ワーカーに相談した。障害担当ワーカーが生活保護担当ワーカーと数回の家庭訪問を行い、はなさんの通所先を探していくことを確認したことから、障害担当ワーカーは区分認定を実施したうえで、近隣の指定特定相談支援事業所の相談支援専門員に相談し、サービス等の調整を依頼することになった【(初回)相談受付票を参照。】

その後、相談支援専門員が何度か面接や通所先の見学同行を行い、現在の生活介護事業所に通所することとなり、通所開始から1年がたとうとしている。生活介護事業所では、絵を描く等の創作的活動のグループに属し、熱心に創作活動をしている。しかしながら、他の利用者との会話は挨拶程度で、雑談などはあまりしていないようで、職員との会話を楽しみにしている。職員との会話ではテレビの話題が多いのだが、最近は家族の話題も出てくるようになった。ただ相変わらず、家族関係は良好とはいいがたく、特に金銭をめぐる、大声での喧嘩や暴力が絶えない。

生活介護事業所では、楽しく過ごしているようであるが工賃は発生しておらず、以前に一般企業に勤め月 10 万程の給料を得ていた経験もあることから、「自由なお金が欲しい」との理由で、お給料のもらえる仕事をしたいと漏らし始めている。

精神科の主治医は、イライラを抑える処方をしているものの、イライラの根幹は家族関係であることが明白であり、気分障害ということで処方しているが服薬での効果は期待しにくい。むしろ家族関係の改善を図るべきとのことで、医療面からの効果はこれ以上期待できないとの見解を示している。

そのような中で、母の糖尿病治療のため、2 ヶ月後に 1 ヶ月程度の入院をすることが明らかとなり、その間の過ごし方を整えていく必要性が生じたこと、サービス等利用計画も 3 月 1 日付で更新する必要があること、また本人から自由なお金が欲しい等の新たな気持ちが出てきている状況であることから、本人・母と行政の障害担当ワーカーと生活介護事業所のサービス管理責任者と担当者と指定特定相談支援事業所の担当相談支援専門員とで、更新のための計画案作成に向けたアセスメント（アセスメント表参照）をもとに、ニーズ整理や支援の方針を確認するための職場でのケース会議をもつこととなった。

#### 【母の言葉】

- はなさんのことはかわいい。ただ母としての責任を強く感じて、色々と心配してしまう。
- あれこれ心配すると、つい多くのことに干渉してしまい、喧嘩になってしまう。
- はなさんの主治医には、喧嘩にならないようにしてほしいと相談するが、親子の問題だと言われて、何の助言もしてもらえない。こんなに、困っているのに…。
- 自分自身の生活や健康は、とても心配であり、今後の娘のことは、施設に入所させてほしいと思っている。
- 糖尿病の診断を受け、食事面などで摂生しないと、もっと悪化すると医師より忠告を受け不安に感じている。
- 自分の不安が多いことから、はなさんに期待してしまうことも多い。はなさんは、それがしんどいようだ。
- 3 年前に体調を崩し、仕事（清掃の仕事）を退職した。はなさんの年金で生活していたが立ち行かず、近隣の知人に相談に乗ってもらい、民生委員を紹介され、生活保護を受給することができた（それまでは、母とはなさんの預貯金で生活）。本当に知人・民生委員には感謝している。

#### 【はなさんの言葉】

- 母のことは好きだが、うるさく感じることも多い。特にお金のことで、自由に使わせて欲しいとお願いしても、全然聞いてくれないので腹が立つことが多い。
- 何か欲しいものがあるわけではないけど、自由に使えるお金が欲しい。今は、お母さんが納得しないと、何も買えない。
- 母のことは心配だが、いつも喧嘩になることもあり、一人で暮らしてみたいと思うこともある。けれども、一人で暮らすことには、不安も多くて自信はない。
- クリーニング屋で働いていた時は、お給料をたくさんもらった。あの時のみたいに、なれるといいな…。けど会社でイジメられたのは辛かった。二度とあんなことになりたくない…。
- 精神科診療所の相談員さんに、年金をもらえるようにしてもらった。あれは、私のお金じゃないのか？
- 通所先は楽しい。けどお給料がもらえないし…。
- 子どもの頃から絵を描くのが好きだった。今でも時々絵（水彩画）を描いている。
- 時々、街に出かけたいと思うことがある。けど、一人では不安なので、家にいることが多い。お母さんと一緒にいると、喧嘩ばかりになってしまう。
- 本当は、他の人みたいに電話やメールで話しをしたり、一緒に遊びに行くことのできる友達が欲しい。